

兵庫県職員「農学職」の仕事紹介

畜産も農学職業務です！



[若手ブドウ農家への摘粒講習会]



[酪農家への暑熱対策指導]



[早生黒大豆枝豆の現地研修会]



[若手農家への簿記指導]



[ブドウ新規就農者への苗木育成指導]



[朝倉さんしょの生育巡回指導]



[麦類の生育調査]



[繁殖和牛農家への子牛飼養管理指導]



[土壤診断で安定生産を支援]



[有機水稻栽培での雑草調査]



[アシストスーツの効果調査]



[葉物野菜の収穫期で省力化を検討]



[いちごの花芽検鏡]



[首都圏百貨店での県産食材のPR・販売]



[農産物加工組織と販売方法を検討]

【淡路島たまねぎ】

「甘み」と「柔らかさ」

9月に苗床に種をまいて、11～12月に田んぼに植え替え、そこから厳しい冬をジッと耐え、寒暖を繰り返すなか、徐々にふくらみ、充分に栄養をためます。緑の葉が自然に倒れ、葉の付け根がしまる5～6月が収穫の時期です。

一部を出荷し、残りを「淡路島たまねぎ」特有の美味しさを作り出す「玉葱小屋」と呼ばれる小屋に吊り下げ、自然の風を利用してゆっくりと乾燥させていきます。自然乾燥することで甘味がより一層増していくとともに、色艶も際立ちます。

科学的な研究によると・・・辛みを示す「ピルビン酸含量」は、最大で他産地の60%程度であり、甘みとなるソテー時の全糖含量も約9～10%で他のたまねぎより3～4%高く、また、他の地域産より「柔らかさ」が圧倒的に高いことが分かっています。「淡路島たまねぎ」は、「甘み」と「柔らかさ」を兼ね備えているのです。



【岩津ねぎ】



「葉も食べられる柔らかさ」

岩津ねぎの名は、兵庫県朝来市岩津の特産であったことに由来します。歴史は古く、江戸時代に生野銀山で働く人々の冬の栄養源として栽培が始まりました。関東の根深ねぎ（白ねぎ）と関西の葉ねぎ（青ねぎ）との中間であり、青葉の部分から白根まですべて食べることができます。大変柔らかく、甘みも豊かです。特に雪や霜にあたるほど旨みを増して、鍋物や焼き物にするとトロリと柔らかくなります。白い部分に含まれる特有成分ネギオールには抗菌、発汗、解熱作用があると言われ、昔から風邪をひくとねぎを用いる習慣がある地域もあります。鍋物や焼き物にするとトロリと柔らかく、岩津ねぎは、冬の食材として絶好の一品です。11月23日から出荷が始まり、2～3月頃まで販売されています。

【山田錦】

「酒米の王者・山田錦」

山田錦は、大正12年(1923年)に県農事試験場で「山田穂」を母に「短稈渡船」を父として人工交配し、昭和11年(1936年)に「山田錦」として奨励品種となりました。一般的な酒米の重さは25~29グラムですが、山田錦は27~28グラムであるため、高精米が可能です。また、米粒が大きく他の酒米と比較するとタンパク質・アミノ酸が少なく心白が大きいことから吸水性や消化性に併せ、「はぜ込み」(米粒の中心部にこうじ菌糸が繁殖していく程度)の良い麹ができるという優れた特長を持っています。山田錦を使用して造られたお酒は香味が良く、きめの細かいまろやかさを持った、いわゆるコクのあるお酒になるといわれます。

山田錦は酒造好適米の代表例に挙げられるように、その登場以後、全国新酒鑑評会では常に上位を占めています。全国では多くの酒米が育成されていますが、依然として、山田錦を主体とした出品酒の金賞受賞率は抜群に高いものがあります。



「大粒・柔らかさ」

一般の大豆が百粒重30グラム程度であるのに比べ、丹波黒3系統は80~90グラムと極めて大粒。粒が大きくて煮えやすく、煮ても皮が裂けることが少なく、煮豆にするとやわらかく風味がよいのが特長です。その大きさや姿形による美しさ、もっちりとした食感、糖度の高さから、お節料理の煮豆以外に、洋菓子を含めた様々な用途に広がってきています。

【丹波黒大豆】

「連綿と続く歴史」

丹波地域を発祥とする大粒球形の黒大豆で、成熟すると表面にろう状の粉をふきます。歴史は古く、江戸時代に、篠山藩青山氏が丹波の特産物として幕府へ献上した記録が残っています。昭和16年、兵庫県農業試験場が古くからこの地方で作られていた「波部黒」から優良な系統を選抜し奨励品種として「丹波黒」と命名しました。現在では、在来の大粒系統である「川北」「波部黒」に加え、県で選抜した大粒で粒揃いのよい「兵系黒3号」の丹波黒3系統が積極的に栽培され、販売されています。

【いちじく】

「無花果」と漢字では書くが、実は、果実そのものが花です。実を二つに割ると、たくさんの花が目に入ります。果実は生食するほか、乾燥いちじくとしても流通し、その他、パンやケーキに練りこんだり、ジャムやスープ、ソースの材料として、またワインや酢の醸造用として、様々な用途をもちます。

「完熟果実」

兵庫県で主に作られているいちじくは果実も大きく、裂果することが少ない風味豊かな「樹井ドーフィン」という品種です。生果としても逸品であるとともに、ぐじゅみなどの加工食品としても親しまれています。

産地では、完熟のいちじくが早朝に収穫され、直売所や近くの消費市場に出荷されています。完熟で収穫した果実は柔らかく傷みやすいですが、甘みは絶品です。とろりと柔らかな食感に上品な甘さから「果物の貴婦人」といわれています。



【兵庫県産但馬牛(神戸ビーフ)】

「連綿と続く血統」

約1200年以上も前から但馬地方で優れた資質と遺伝力を受け継ぎながら飼育され、血統が守られてきた但馬牛。この但馬牛を約2年間肥育したものが「兵庫県産但馬牛」といい、安全・安心な兵庫県産として、県内各地で飼育されています。脂肪が筋肉の中に細かく入り込んだ霜降りは、人肌で溶けてしまうほど融点が低くなっています。県の研究によって科学的にも風味やおいしさの秘密が明らかとなりつつあります。

生きた牛は「たじまうし」、肉になると「たじまぎゅう」と呼ばれます。県内で生まれた但馬牛は、県内各地で肥育され、「神戸ビーフ」「但馬牛(たじまぎゅう)」のほか、「三田牛」「加古川和牛」「丹波篠山牛」「淡路ビーフ」などの地域ブランドで出荷されています。なお、安全・安心な品質を届けるために、「但馬牛血統証明システム」で個体管理情報をホームページで公開しています。



兵庫五国の農業の姿 摂津(神戸・阪神)

兵庫県は「日本の縮図」
多様性と都市近郊の立地を活かした展開

- 神戸地域では、大都市部に隣接する立地を活かし、北区では花、酒米、いちご等、西区では葉物野菜、果樹の生産等、酪農や肉用牛の生産が盛んで、多彩なブランド農畜水産物が育まれています。
- 阪神地域では、市街化区域内の生産緑地を中心に葉物野菜等の技術集約型農業が営まれ、地域内外の消費者への新鮮な農産物の供給基地となっています。



賑わいをみせる大型農産物直売所
(神戸市西区)



全国的にも評価が高いシントップ ウユリ
(神戸市北区)



生産緑地での野菜生産
(西宮市)

播磨(東部・北部)

- 東播磨地域では、低コスト・省力技術等を導入した集落営農組織等による水稻、麦、大豆等の土地利用型作物やキャベツ等の野菜生産が行われています。
- 北播磨域地域は県内有数の水田農業地帯であり、日本一の酒米「山田錦」をはじめ、黒田庄和牛、播州百日どり、ぶどう「加西ゴールデンベリーA」等の特産品が生産されています。



次世代施設園芸団地
(加西市)

※国のモデルとして位置づけられた
全国10カ所の次世代施設園芸拠点



酒米の王者 兵庫県産山田錦
(三木市等)



集落営農組合による六条大麦の収穫
(稻美町)

兵庫五国の農業の姿 播磨(中部・西部)

兵庫県は「日本の縮図」
多様性と都市近郊の立地を活かした展開

- 中播磨地域では、消費地に近い恵まれた立地条件を活かし、**水稻・麦の土地利用型作物**を中心に、たけのこ・れんこん・葉物野菜等の**野菜類**や切り花、花壇苗などの花き類、いちじく・ゆず等果樹類の特色ある農産物が生産されています。
- 西播磨地域では、南部は**水稻・麦・大豆等の土地利用型大規模経営**、干拓地の**だいこん**や**にんじん**等の露地野菜生産が行われています。
また北部では、良食味米や**黒大豆**、夢さよう(**もち大豆**)等の特産品が生産されています。



もち麦の収穫作業
(福崎町)



干拓地に広がる野菜产地
(たつの市)



佐用もち大豆
(佐用町)

※大豆では初めて地理的表示（G I）
保護制度にR元年5月に登録された

但馬

- 「コウノトリ育む農法」による**米・大豆**や冷涼な気候を活かした**だいこん**、**キャベツ**等の**高原野菜**、**なし**、**岩津ねぎ**、**美方大納言**、**朝倉さんしょ**等の特産品が生産されています。
- 「神戸ビーフ」の素牛となる**但馬牛**の原産地であり、**繁殖・肥育**が行われています。



「コウノトリ育む農法」の田植え
(豊岡市)

※米糠の同時施用



但馬牛の子牛共進会
(新温泉町)



朝倉さんしょの実
(養父市)

兵庫五国の農業の姿 丹波

兵庫県は「日本の縮図」
多様性と都市近郊の立地を活かした展開

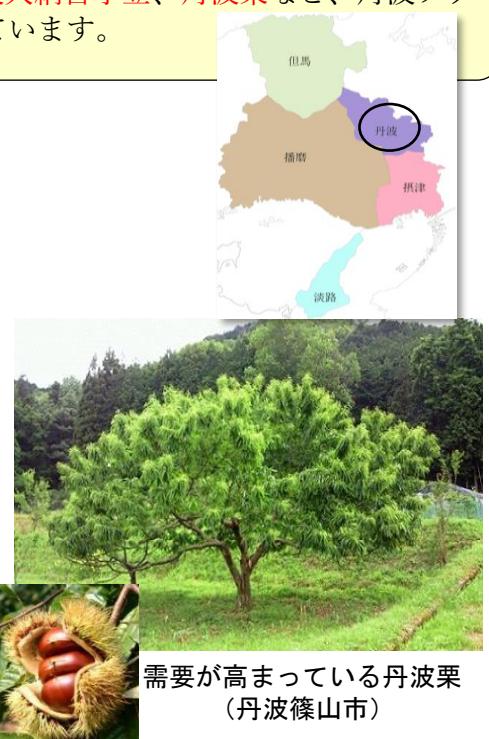
- 昼夜の温度差が大きい等の盆地特有の気候が、**米、丹波黒大豆、丹波大納言小豆、丹波栗**など、丹波ブランド農産物を育み、優れた食材と食文化により地域の魅力が形成されています。



丹波黒大豆の栽培ほ場
(丹波篠山市)



丹波大納言小豆の生育調査
(丹波市)



需要が高まっている丹波栗
(丹波篠山市)

淡路

- 淡路島は県内でもっとも農林水産業が盛んで、南部地域は、**たまねぎ・レタス等の野菜と水稻**を組み合わせた**三毛作体系**が確立されています。また、北部地域では、気候・立地条件を生かした集約的な施設**花き**や**施設野菜**、多彩な**果樹**の生産が盛んに行われています。
- 畜産業は全域において盛んであり、**生乳生産**や**但馬牛繁殖**の拠点となっています。



たまねぎ小屋
(南あわじ市)



カーネーション
(淡路市)



乳用牛牧場
(南あわじ市)

農学職について

配属先

本庁の総合農政課、農業改良課、農産園芸課などの課や、県内の農林（水産）振興事務所、農業改良普及センター、農林水産技術総合センター（試験研究部門）等に配属されます。

職務内容

(1) 行政

力強い農業及び畜産業の確立に向けて、産地の条件整備など農業振興施策を企画立案し、その推進にあたっています。（主な勤務場所：本庁、農林（水産）振興事務所）

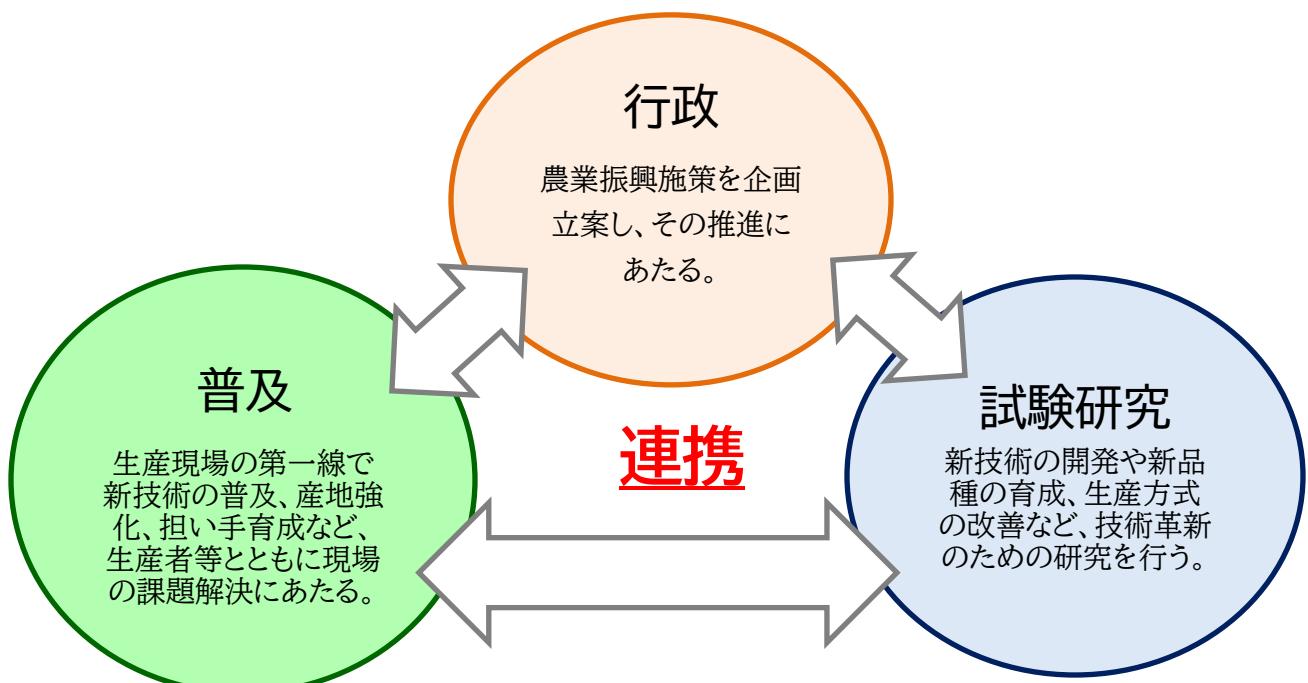
(2) 普及

農業や畜産業の現場の第一線で新技術の普及、産地の強化や担い手の育成など、生産者等とともに現場の課題解決にあたっています。（主な勤務場所：農業改良普及センター）

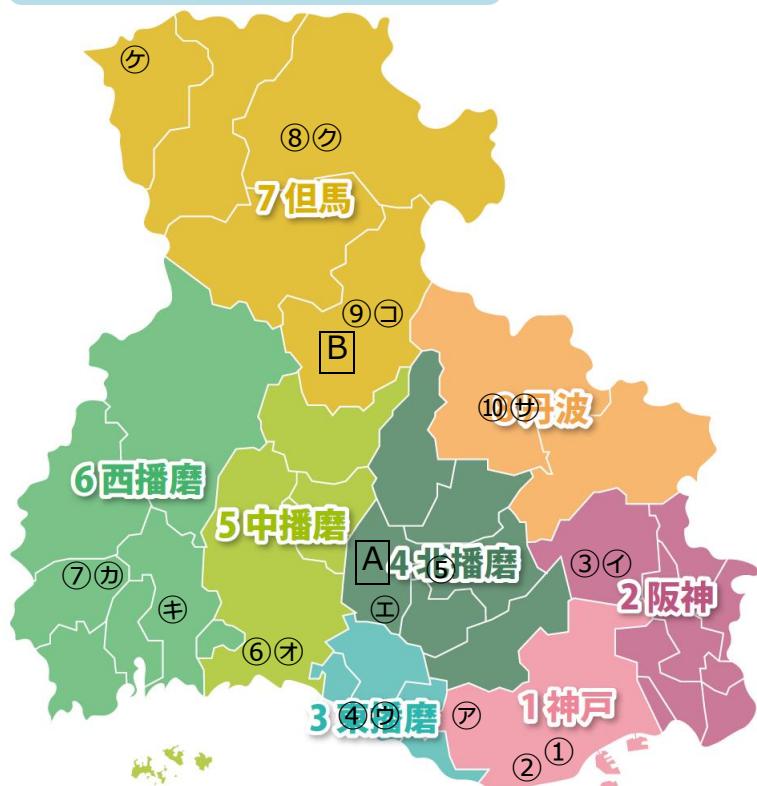
(3) 試験研究

新技術の開発や新品種の育成、生産方式の改善など、技術革新のための研究を行っています。（主な勤務場所：県立農林水産技術総合センター）

～これら3つの分野が連携しながら職務を進めています～



主な勤務機関 配置図

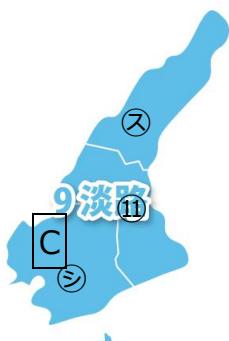


① 農林水産部（本庁）

- 総務課
- 総合農政課
- 農業経営課
- 農業改良課
- 農地整備課
- 林務課
- 治山課
- 水産漁港課
- 畜産課
- 農産園芸課
- 農林経済課
- 流通戦略課

県立農林水産技術総合センター

- [A] 農業技術センター
- [B] 北部農業技術センター
- [C] 淡路農業技術センター



※1 図中の番号(記号)は、組織図内に記載の番号(記号)を示しています。

※2 基図の着色は各県民局（センター）の管内を示しています。



〈各県民局（センター）の農学職配置部署〉

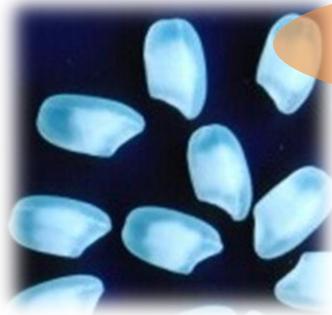
- 神戸県民センター — ② 神戸農林振興事務所
 - ア 神戸農業改良普及センター
- 阪神北県民局 — ③ 阪神農林振興事務所 (阪神南県民センター管内も管轄)
 - イ 阪神農業改良普及センター
- 東播磨県民局 — ④ 加古川農林水産振興事務所
 - ウ 加古川農業改良普及センター
- 北播磨県民局 — ⑤ 加東農林振興事務所
 - エ 加西農業改良普及センター
- 中播磨県民局 — ⑥ 姫路農林水産振興事務所
 - オ 姫路農業改良普及センター
- 西播磨県民局 — ⑦ 光都農林振興事務所
 - カ 光都農業改良普及センター
 - キ 龍野農業改良普及センター
- 但馬県民局 — ⑧ 豊岡農林水産振興事務所
 - ク 豊岡農業改良普及センター
 - ケ 新温泉農業改良普及センター
- ⑨ 朝来農林振興事務所
 - コ 朝来農業改良普及センター
- 丹波県民局 — ⑩ 丹波農林振興事務所
 - サ 丹波農業改良普及センター
- 淡路県民局 — ⑪ 洲本農林水産振興事務所
 - シ 南淡路農業改良普及センター
 - ス 北淡路農業改良普及センター

上図では省略しているが、各県民局（センター）には、総務企画室、県民交流室、県税事務所、健康福祉事務所、土木事務所などの部署で構成されている。

また、各農林（水産）事務所には、農業改良普及センターのほか、土地改良事務所（センター）も所属している。

取組事例 I

「行政」「普及」「試験研究」で取り組む“日本一の酒米の振興”



行政

「普及指導員」を5年経験し、現在「行政」を担っています。兵庫県の酒米がより発展していくよう生産者から酒蔵までの関係者のつながりを大切に取り組んでいます。



北川 真輔 主査
農産園芸課

普及

山田錦は誕生して約90年！まだ研究するところがあるの？と思うかもしれません。いえ、近年の気候変動への対応は大きな課題です。スマート農業技術も導入しながら、新たな栽培技術を開発しています。



松川 慎平 主任研究員
農業技術センター農産園芸部 酒米試験地

普及指導員として直接農業者と接し、技術力や経営力の向上を支援しています。日本一の酒米生産に携わることに誇りを感じながら、農業者や関係機関と高品質な山田錦生産を目指しています。



高原 漠主任 加西農業改良普及センター

試験研究



RiceCam^Y

診断結果

あなたの田んぼの生育量は？

133.8

おすすめの窒素施肥量は 1.2 kg/10a。

1回目の種[△]施用は、幼穂長が2mm(出穗20日前)時です。

おすすめの肥料の10a当たりの施肥量は？

* 「他の」[□] (「施肥有機」なら 10.0 kgです。
N 化成なら 6.7 kg です。)

なお、2回目[△]の種[△]施肥は1回目の10日後、栽培[△]ソシsson成 1.2kg/10aを施用してください。

追肥量が表示される

酒米「山田錦」の刈取り穗肥診断アプリの開発 稲の画像データから最適な追肥量を診断

取組事例 II

「行政」「普及」「試験研究」で取り組む “施設園芸の産地づくり”

行政



国内有数の次世代施設園芸団地（左写真）の運営やハウス内環境を自動で制御する環境制御機器の導入支援など、施設園芸の普及・推進に関わる業務に携わっています。施設園芸は投資額が大きいため、生産者が安定した経営を実現するための支援策を提案していきます。



満田 祥平 主任
農産園芸課



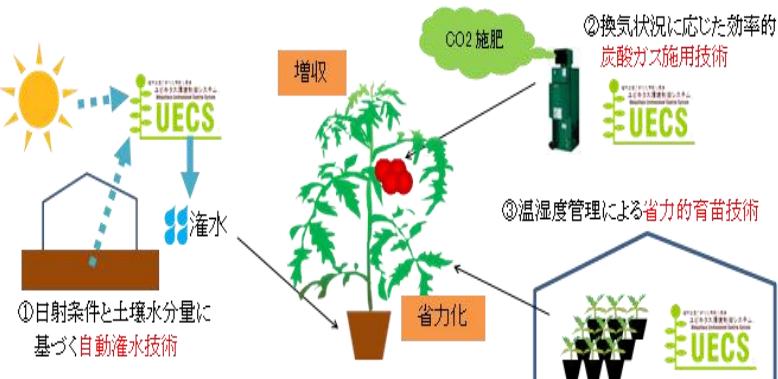
武部 加奈子 副主任
神戸農業改良普及センター

栽培指導や技術導入により、様々な地域課題の解決に取り組んでいます。生産者や関係機関と連携し、高温対策を検討するなど、施設園芸作物の安定生産や経営安定を目指しています。



普及

試験研究



UECS を活用した施設環境制御技術開発のイメージ図

UECSとはユビキタス環境制御システムの略。規格に準拠した製品は通信規格が統一されているため、メーカーと仕様を気にせず接続でき、拡張性・汎用性が高い。



自分の開発した技術で生産者が喜んでいただけるのが嬉しくて、試験研究に取り組んでいます。少しでも、兵庫県の農林水産業に貢献できるようがんばっています。

渡邊 圭太 主任研究員
農業技術センター農産園芸部

取組事例 Ⅲ

「行政」「普及」「試験研究」で取り組む “新たな特産品づくり”

行政



兵庫県の恵まれた気候を活かした特產品づくりを支援できるように、現場と関係団体等の連携を図りながらイベントの企画やPR活動に取り組んでいます。



納 梨花 主事
農業改良課



井口稲太 副主任
朝来農業改良普及センター

「行政」「研究」の方々と連携して、農家の技術・経営向上に向けた新技術の普及活動や、岩津ねぎ等地域農産物の活用方法を農家や関係機関と検討するなど、地域に根差した農業振興に取り組んでいます。

普及



試験研究



アサクラサンショウの特長を生かせる冷凍加工技術の開発



朝倉山椒、黒大豆、大納言小豆などの県産特産物の品質や機能性を評価し、特性を生かした食品の加工・流通技術の開発に取り組んでいます。

坂田秀朗 研究員
北部農業技術センター

畜産業の振興も「農学職」の業務です！！



たじまうし 但馬牛の増頭

但馬牛繁殖経営の規模拡大に取り組む生産者等を対象に、繁殖管理ツール（本県普及指導員が開発）等を活用した発情発見率の向上や、市場評価の高い子牛生産をめざし、飼養改善に取り組んでいます。

規模拡大を目指す繁殖農家と耕作放棄地の解消に頭を痛める集落営農組織をマッチングする「レンタカウ方式」の放牧なども推進しています。



県産生乳の生産力強化

優良後継牛を確保するため、乳用子牛の発育向上に向け、飼料給与など飼育管理の改善や月齢にあわせた適切な飼養設備の整備など飼育環境の改善に取り組んでいます。

また、夏場の乳量低下を抑制するための暑熱対策強化、ICT機器の導入による「スマート畜産」の推進にも取り組んでいます。



「播州百日どり」で地域を盛り上げる

「播州百日どり」産地のため、暑熱対策、鶏ふんの活用や後継者育成など生産振興対策に取組んでいます。

また、地域の飲食店でのグルメイベントの開催やSNSを活用した都市部へのPR、缶詰など新商品の開発など流通拡大にも取組んでいます。



「播州百日どり」ロゴマーク



先輩職員からのメッセージ



龍野農業改良普及センター地域・経営課
原 和花

○経歴

2022年4月 兵庫県入庁
農産園芸課

2024年4月 龍野農業改良普及センター

西播磨地域で普及指導員として、農産加工技術指導やPR販売の支援、農作業の効率化・労働負荷軽減などに取り組んでいます。人手不足や高温など、取り巻く環境が厳しくなる中で、農業や地域の特産品を次世代につなげるよう、JA・市町等の関係機関や、県の研究機関とも連携しながら活動しています。

普及指導員は日々変化する現場に一番近く、常に緊張感がありますが、農家とともに考え取り組んだことが課題解決につながることが何よりも励みになります。



○メッセージ

行政・普及を経験し、農家1戸1戸の力が集まり、多様性のある農畜産業が実現していることを強く感じます。

普及は現場の最前線で、農家とともに地域農業を考え、課題解決を目指すことができるやりがいのある仕事です。

私たちに欠かせない「食」の根幹にあり、魅力あふれる兵庫県の農畜産業を、ともに支え盛り上げていきませんか。



農業技術センター病害虫部
富 原 工 弥

○経歴

2013年4月 兵庫県入庁
南淡路農業改良普及センター

2017年4月 県立農林水産技術総合センター
農業技術センター病害虫部

虫害担当の研究員として、光や振動などの物理的刺激を利用して農業害虫による被害を防ぐ、環境に優しい防除技術の開発に取り組んでいます。生き物を相手にした研究は一筋縄ではいきませんが、農家や普及員、他の都道府県の研究者など、様々な人たちと頭をひねり、体を動かし、技術を組み立てていく試験研究は、自分の個性を存分に発揮できるやりがいのある仕事です。



○メッセージ

農業のプロである農家の経営を支え、共に地域を守り、技術を駆使して農業を育てていくプロとしての仕事。農家と共に成長しながら自分の可能性を拓げられる仕事です。そんな「プロ」としてあなたも一緒に働いてみませんか。

私 の 1 日 の 仕 事

加東農林振興事務所 農政振興課 松尾 実佳 (H31採用)
主な担当業務

1. 主作・野菜の生産・出荷及び農業経営の改善に関すること
2. 農業機械化促進・スマート農業に関すること



AM

8:45～ 出勤

メールや決裁書類の確認、文書の作成



11:00～ 新任職員の指導

WAYメンターとして、補助事業の流れや文書起案の方法など、事務の基礎を伝授



12:00 昼休み (所内 or 近所で外食)

PM

13:30～ ひょうごの野菜作導入促進事業にかかる打合せ

普及センターにて、ひかり姫生産者、農業改良普及指導員と実証事業について打ち合わせ



16:00～ 補助事業の質問対応

農業支援サービス事業者に対してスマート農業機械の導入等を支援する事業や、市町担当者からの質問に対して、実施要領やQ&Aを確認して回答

17:30 退庁

北播磨産山田錦の日本酒で家族と晩酌！



北淡路農業改良普及センター 地域・経営課 佐野 翔平 (H28採用)

主な担当業務

1. 花き農家の指導 (技術・経営改善)
2. 集落営農に関する指導



AM

9:00～ 出勤

メールや回覧資料の確認や、現場で使う資料の準備



9:45～ キクの栽培講習会で栽培指導

JA キク部会の栽培講習会で今後の栽培管理の注意点を説明



12:00 昼休み (帰庁)

持参のお弁当を食べる

昼食後は事務所周辺を散歩

PM

13:30～ 集落営農法人との打ち合わせ

営農計画や運営体制の見直しのため、代表者に現状を聞き取り



16:30～ 帰庁

聞き取り内容の整理と次回の打合せ資料の作成

外出中にきたメールや電話の確認

17:45 退庁

淡路市の海岸沿いを車で走り、リフレッシュしながら帰宅

